

～平成29年以来、8年振りの結核の集団感染について～

- 昨年12月16日、有明保健所に有明保健所管内在住の30代女性の結核患者の発生届出がありました。
- 有明保健所が、患者の勤務先である事業所の従事者を対象に接触者健康診断^{※1}を実施したところ、発病者^{※2}2人と感染者^{※3}10人が確認され、本日、結核の集団感染事例^{※4}として国に報告しました。
- 発病者及び感染者は医療機関において治療や経過観察を受けており、周囲に感染させる恐れはありません。なお、今回の事例では現時点で入院者はいません。
- 本情報提供は、県民への結核予防の啓発として行うものです。結核について正しく理解するとともに、長引く咳など有症状時は早期に受診し、年1回は胸部レントゲン検査を受けるようにしましょう。

※1：接触者健康診断

- ・ 初発患者が結核を感染させる可能性のある期間において、その患者と同じ空間にいた者（接触者）に対して、検査等を行うこと。

※2：発病者

- ・ 結核菌に感染し、結核を発病している人。

※3：感染者

- ・ 結核菌に感染しているが、発病していない人。

※4：集団感染の定義

- ・ 同一の感染源が、2家族以上にまたがり、20人以上に結核を感染させた場合をいう。ただし、発病者1人は6人が感染したものと患者数を計算する。
- ・ 今回の事例の場合、初発患者を除き、22人となる。

$$(\text{発病者} 2 \text{人} \times 6) + (\text{感染者} 10 \text{人}) = \text{患者数} 22 \text{人}$$

1 概要

(1) 発生施設

事業所（有明保健所管内）

(2) 患者発生の経過

令和5年1月：職場の健康診断における胸部レントゲン検査で異常あり。

令和5年1月～令和6年12月：咳、痰等の症状があり、複数の医療機関を受診。

令和6年12月16日：有明保健所管内のA医療機関を受診。同医療機関で結核と診断され、同日に有明保健所に発生届出。

令和7年5月13日：発病者数及び感染者数が集団感染の定義をこえたため、国に報告。

(3) 発病者及び感染者の概要（令和7年5月14日現在）（人）

区分	20歳代	30歳代	70歳代	計
発病者	1	1		2
感染者	6	3	1	10

(4) 接触者健康診断の実施状況（令和7年5月14日現在）（人）

対象者		うち調査終了	うち調査中
事業所の従事者	29	7	22

2 県の今後の対応

- ・発病者及び感染者については、医療機関と連携して服薬治療の支援や経過観察を実施。
- ・調査中の接触者については、引き続き、接触者健康診断を行う。
- ・今回の事例を踏まえて、県内の医療機関に対して情報提供や啓発を行う。

<参考>

(1) 結核の集団感染の状況（全国及び本県）（件）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7
全国	44	44	42	45	38	46	25	18	6	11	9	注1	注1
熊本	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1注2

注1：R6以降のデータなし

注2：本事例を含む

(2) 結核新規登録者数（人）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5
全国	20,495	19,615	18,280	17,625	16,789	15,590	14,460	12,739	11,519	10,235	10,096
熊本	277	281	282	232	239	201	175	170	126	146	117

(3) 結核について

結核（2類感染症）の詳細については、別添リーフレット及び以下のホームページ参照。

【厚生労働省ホームページ（結核）】

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou03/index.html

（問合せ先）

健康危機管理課 感染症対策班 担当：松本、徳永
電話：096-333-2240（直通）（内線33154）

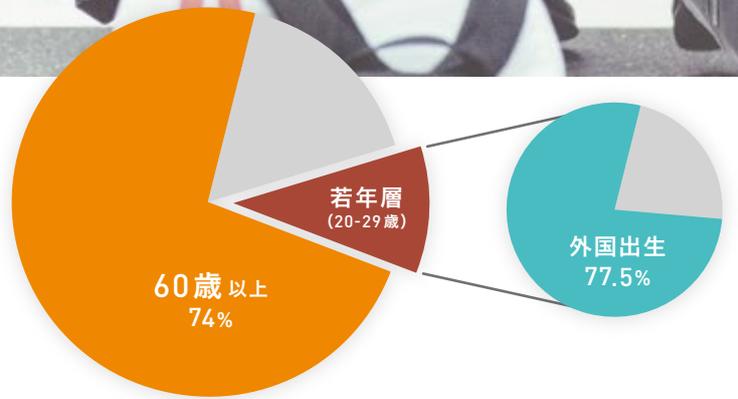
い・ま・も

1日平均

28

人が

結核と診断されています。



せき・たんが2週間以上続いたり、
微熱や体のだるさが続く場合は、
早めに医療機関を受診しましょう

- ・新規結核患者は、高齢者に多く、およそ3/4 (74%) は60歳以上
- ・特に若年の外国生まれの患者の割合が増加しており、若年層 (20-29歳) の新規患者のおよそ3/4 (77.5%)



結核に関する5つのQ&A

Q1 結核の症状にはどんなものがあるの？

A1 結核の症状（長引く咳、たん、微熱、体のだるさなど）には特徴的なものがなく、初期には目立たないことが多いため、特に高齢者は気づかないうちに進行してしまうことがあります。咳やたんが2週間以上続いたり、微熱や体のだるさが続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

Q2 結核はどうやってうつるの？

A2 結核が進行すると、咳やくしゃみなどによって、空気中に結核菌が飛び散るようになります。その結核菌を吸い込むことにより周りの人に感染が広がります（空気感染）。

Q3 普段から気を付けることは？

A3 定期的に健康診断を受けることが重要です。結核を発症しても、早期に発見できれば重症化を防げるだけでなく、家族や友人等への感染拡大を防ぐことができます。

Q4 どんな人が結核と診断されているの？

A4 新規結核患者は、高齢者に多く、およそ4分の3が60歳以上となっています。また、特に若年の外国生まれの患者の割合が増加しており、20-29歳の新規患者のおよそ4分の3を占めています。

Q5 結核は治療すれば治るの？

A5 結核は通常、薬（抗結核薬等）を医師の指示通りに飲めば治ります。一般的な治療期間は6か月～9か月となります。治療途中で薬を飲むのをやめてしまったり、指示された通りに薬を飲まなかったりすると、結核菌が薬に対して抵抗力（耐性）を持ってしまい、薬の効かない結核菌（耐性菌）になってしまう可能性があります。医師の指示を守って、治療終了まできちんと薬を飲み続けることが最も重要です。

